

## 参考資料

- 1 全国の自殺の状況
- 2 久留米市の自殺の状況
- 3 令和4年度久留米市民意識調査

## 参考

### 自殺に関する統計について

自殺の統計資料は、厚生労働省の「人口動態統計」と警察庁の「自殺統計」に基づき厚生労働省自殺対策推進室が作成する「地域における自殺の基礎資料」を参考に集計・分析等を行っています。各統計資料は下記のとおり捉え方に違いがあり、公表される自殺者数も異なっています。

	厚生労働省 人口動態統計	警察庁自殺統計 「地域における自殺の基礎資料」
対象者	日本における日本人	日本における外国人を含む総人口
事務手続上の差異	自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明の時は、自殺以外で処理される。死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は自殺に計上されない。	発見時には自殺が明確でない場合でも、その後の調査で判明した場合はその時点で「自殺統計原票」を作成して計上される。
自殺者数	住居地（自殺者の居住のあった場所）で集計。	発見地（自殺死体が発見された場所）と住居地（自殺者の居住があった場所）の2通りで集計

#### ◎ 地域自殺実態プロファイルについて

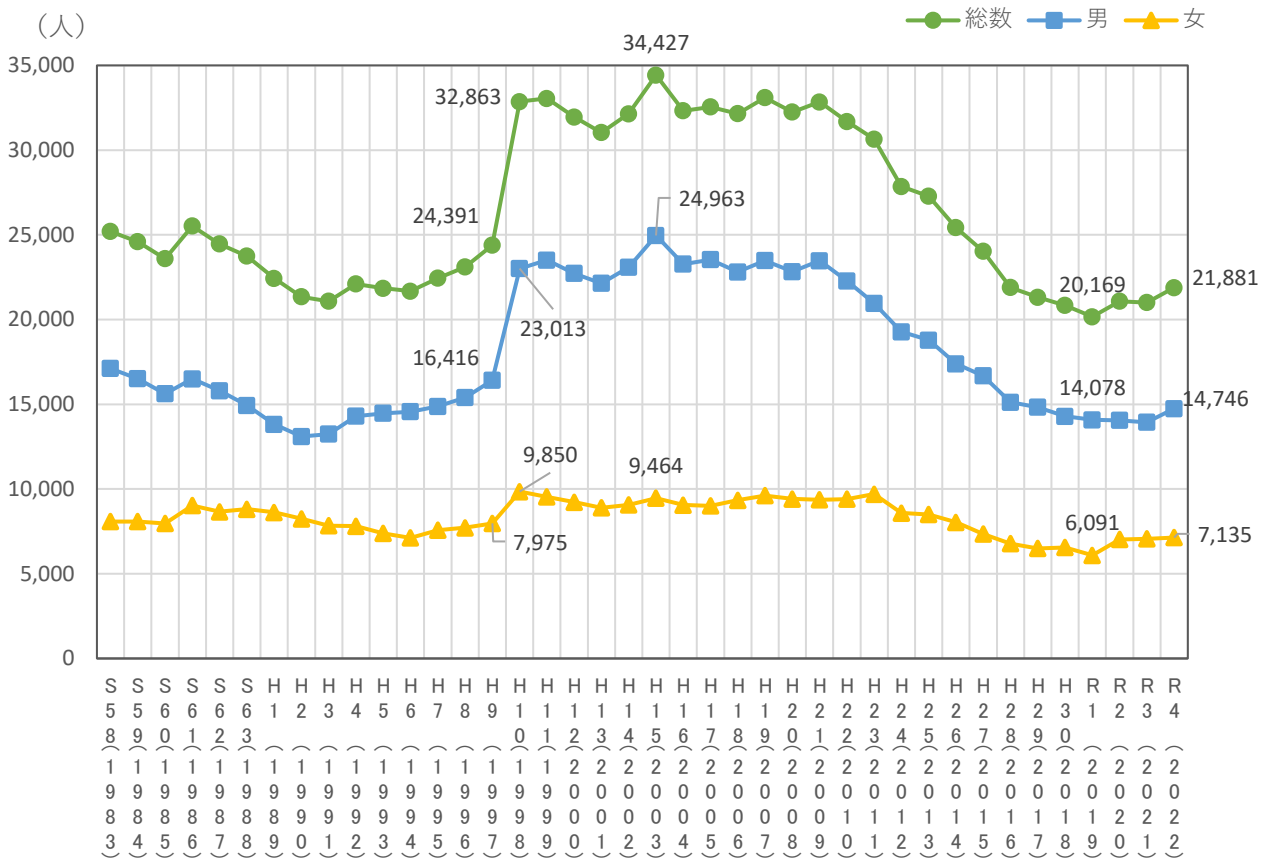
自殺対策総合推進センターが、地域の自殺の実態を詳細に分析したものです。警察庁自殺統計、人口動態統計、国勢調査、経済センサスなどをもとに作成されています。

#### ◎ 特別集計について

警察庁自殺統計原票を基に自殺総合対策推進センターと厚生労働省自殺対策推進室で特別集計し、作成されています。

# 1 全国の自殺の状況

警察庁の自殺統計によると、全国の自殺者数は平成10年に前年の2万4,391人から8,472人増加の3万2,863人となり、それ以降14年連続して3万人を超える状況が続いていました。平成22年以降は9年連続の減少となっており、平成30年には2万1,000人を下回りましたが、令和2年、総数は11年ぶりに前年を上回り、その後2万1,000人あまりで推移しています。



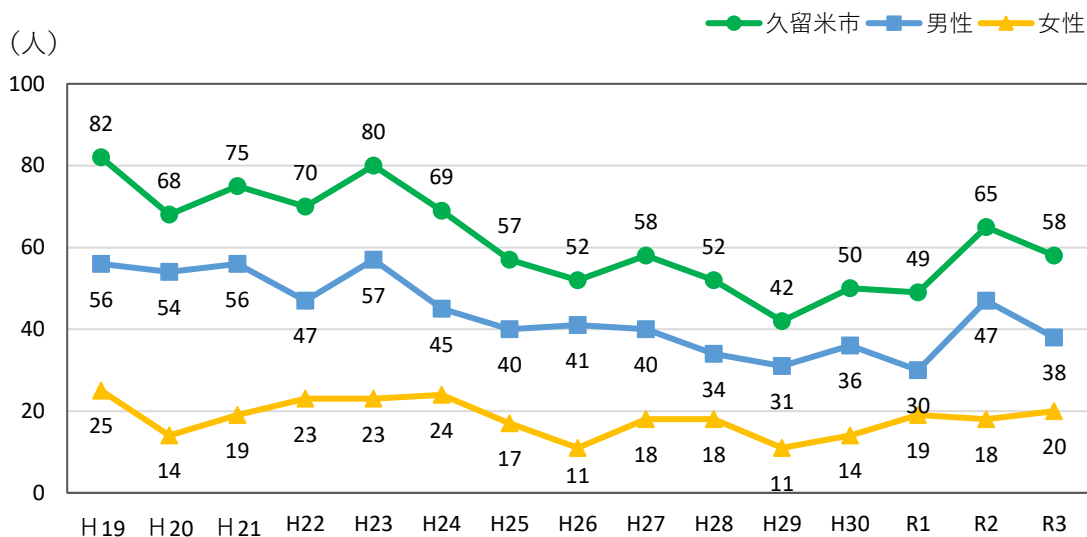
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

## 2 久留米市の自殺の状況

### (1) 自殺の概況

#### 1-1 自殺者数の推移(平成19年～令和3年)

性別で見ると、男性は令和2年に大きく増加し、令和3年に減少しています。一方、女性は平成30年以降増加傾向にあります。

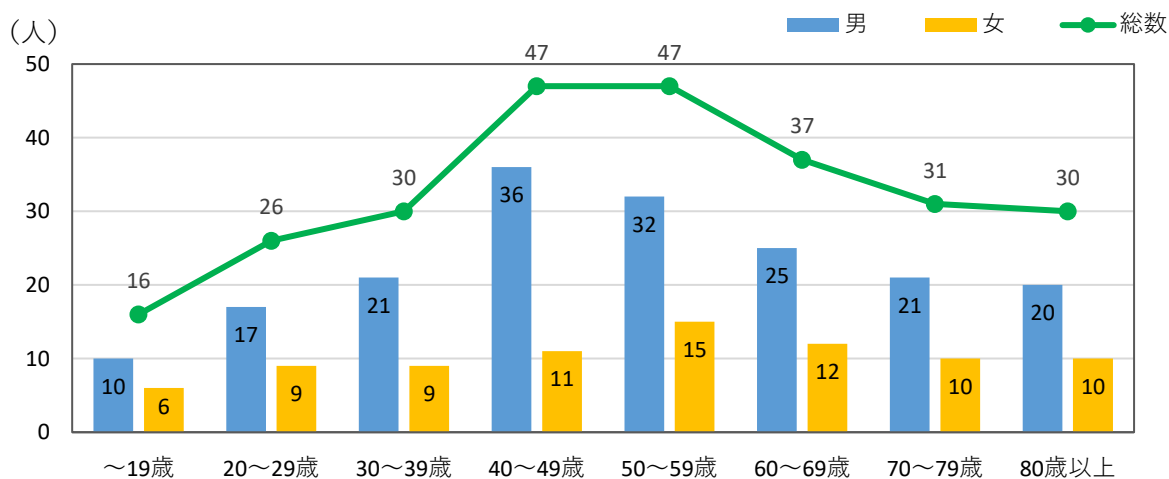


資料：人口動態統計

### (2) 性・年代別の状況

#### 2-1 性・年代別自殺者数(平成29年～令和3年合計)

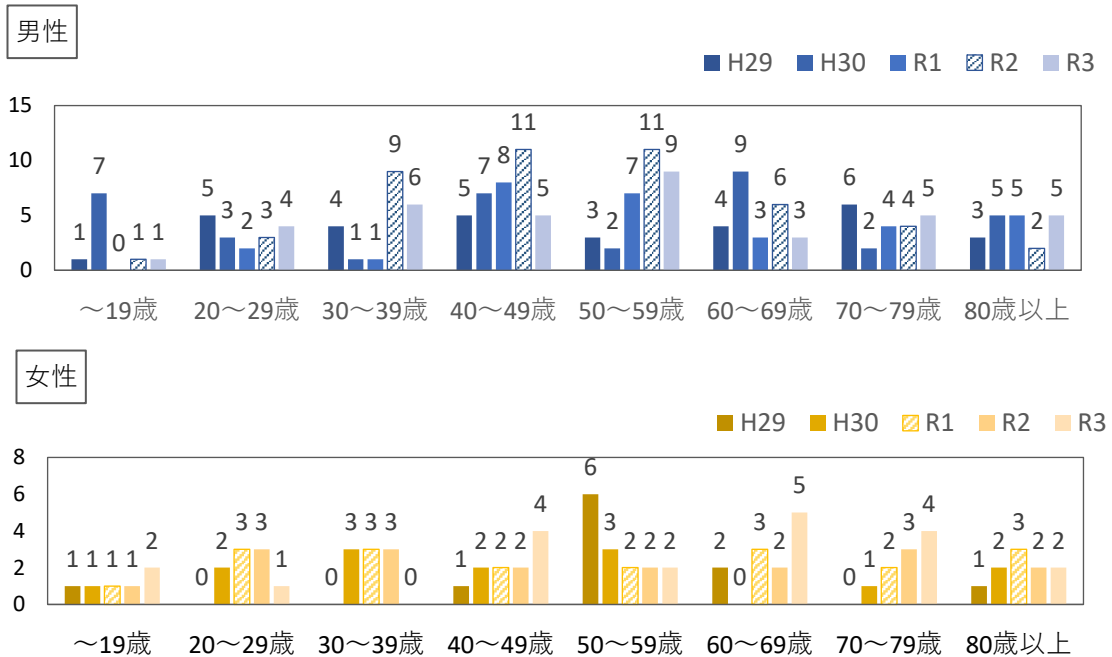
性・年代別にみると40歳代男性が36人で最も多く、次いで、50歳代、60歳代男性となっています。男女比は7：3となっています。



資料：人口動態統計

## 2-2 性・年代別自殺者数の推移(平成29年～令和3年)

性・年代別の自殺者数の推移をみると、令和2年に30歳代男性の数が大きく増加しています。女性は令和3年に40歳代、60歳代、70歳代が増加しています。



資料：人口動態統計

## 2-3 年齢階級別における死因別順位・自殺の割合 (平成29年～令和3年累計)

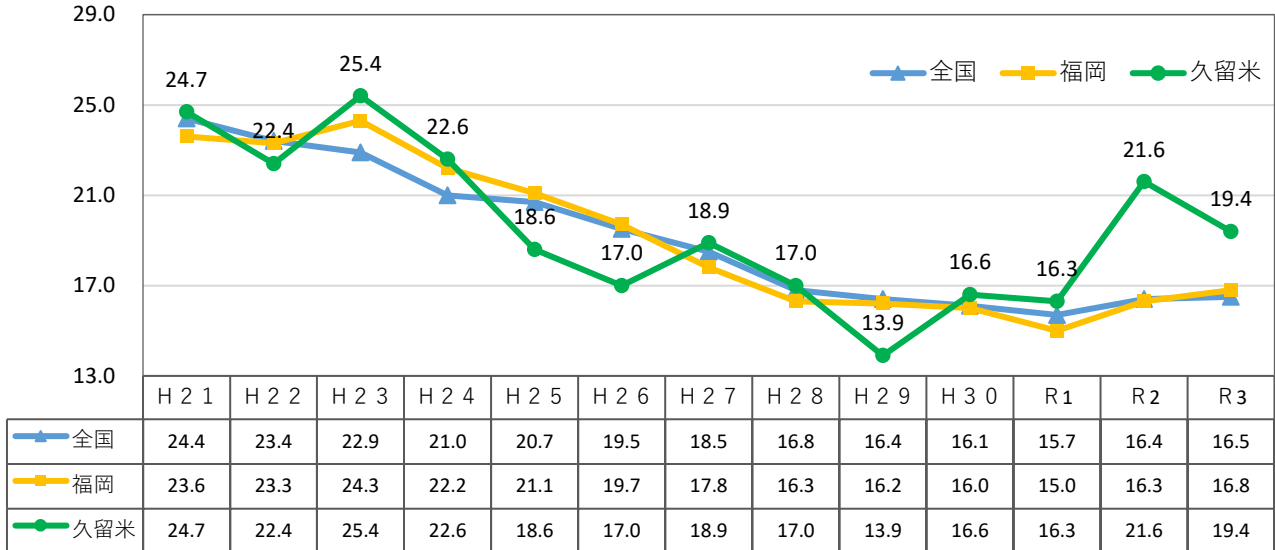
年代別の死因順位をみると、10歳～29歳、35歳～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっています。若い世代は、全体の死亡における自殺の割合も高く、特に15歳～24歳の年代は、5割を超えています。

年齢階級	第1位	第2位	第3位	自殺の割合 (%)
10～14歳	自殺	悪性新生物・神経系疾患		37.5
15～19歳	自殺	不慮の事故	悪性新生物・他に分類されないもの	72.2
20～24歳	自殺	神経系疾患	不慮の事故	56.7
25～29歳	自殺	悪性新生物	不慮の事故	30.0
30～34歳	悪性新生物	自殺	不慮の事故	27.5
35～39歳	自殺	悪性新生物	循環器系疾患	32.2
40～44歳	悪性新生物	自殺	悪性新生物・他に分類されないもの	21.1
45～49歳	悪性新生物	循環器系疾患	自殺	14.8
50～54歳	悪性新生物	循環器系疾患	自殺	10.6
55～59歳	悪性新生物	循環器系疾患	自殺	7.0
60～64歳	悪性新生物	循環器系疾患	呼吸器系疾患	4.1

資料：人口動態統計

## 2-4 自殺死亡率(久留米市・福岡県・全国)の推移(平成21年～令和3年)

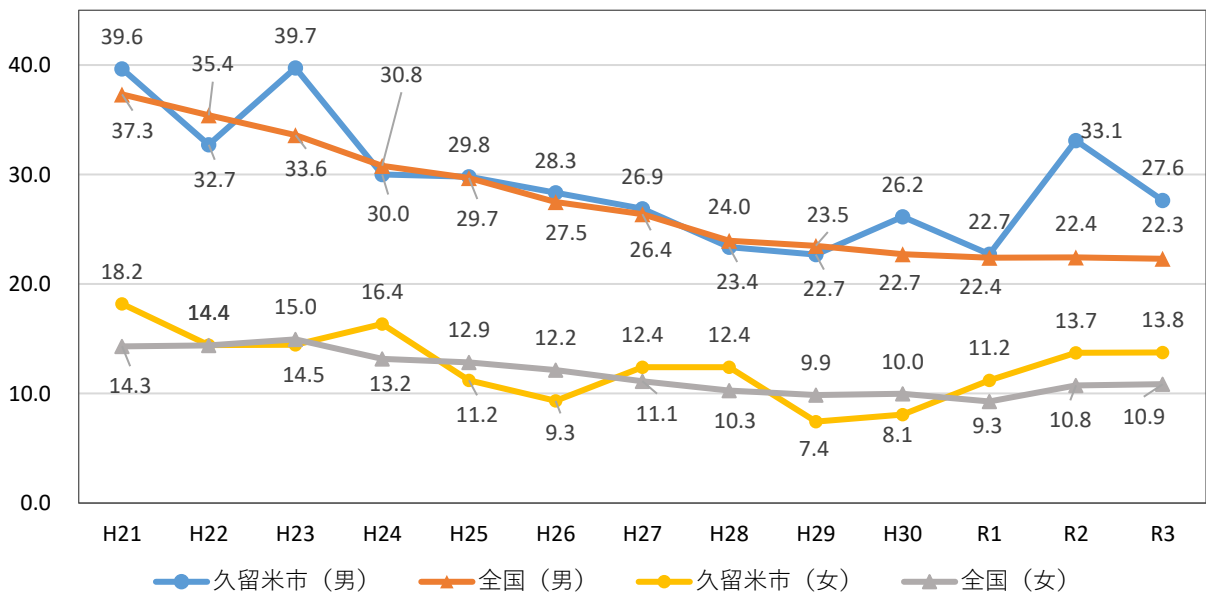
本市の自殺死亡率は、全国、福岡県と同様、平成24年以降減少し、平成29年には、13.9と福岡県を下回る数値となりました。その後、16.6を推移していましたが、令和2年以降は、全国、福岡県を大きく上回る状況となっています。



資料:人口動態統計

## 2-5 性別の自殺死亡率(久留米市・全国)の推移(平成19年～令和3年)

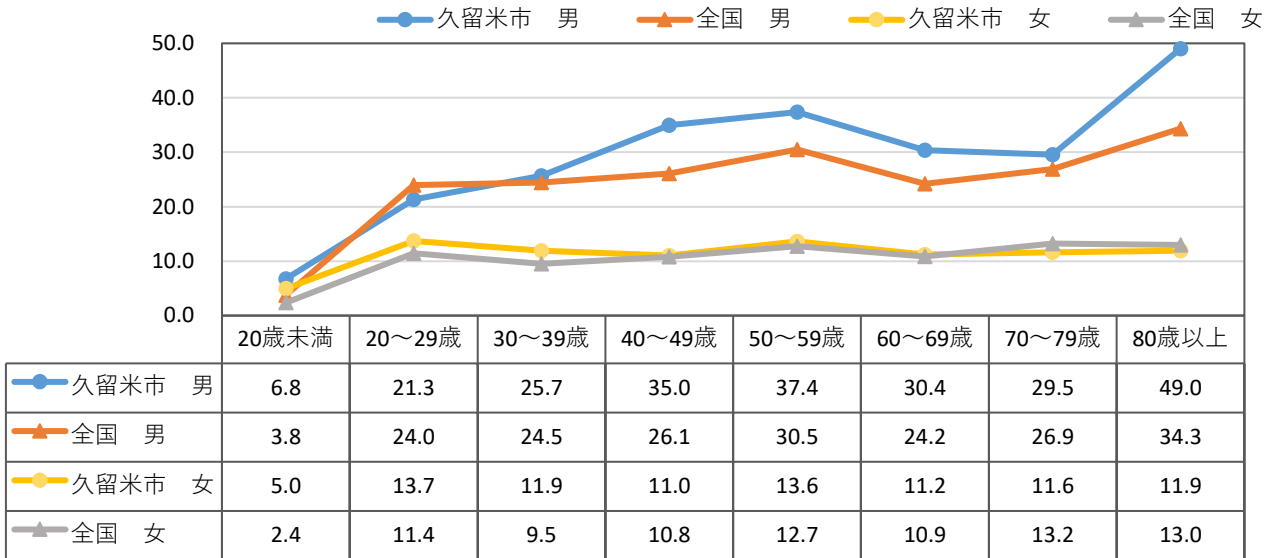
性別でみると、本市の男性の自殺死亡率は平成24年以降減少傾向となりますが、平成30年、令和2年に急増し、令和3年も全国値を大きく上回っています。女性の自殺死亡率は平成30年に増加に転じ、その後も増加が続き、全国値を上回っています。



資料:地域における自殺の基礎資料

## 2-6 性・年代別自殺死亡率の推移(平成29年～令和3年合計)

男性は、20歳代を除く全世代で全国男性の自殺死亡率を上回っています。特に80歳以上については差が最も大きくなっています。女性は、60歳代までのすべての年代で全国を上回っており、特に20歳未満の世代では全国の自殺死亡率の2倍となっています。

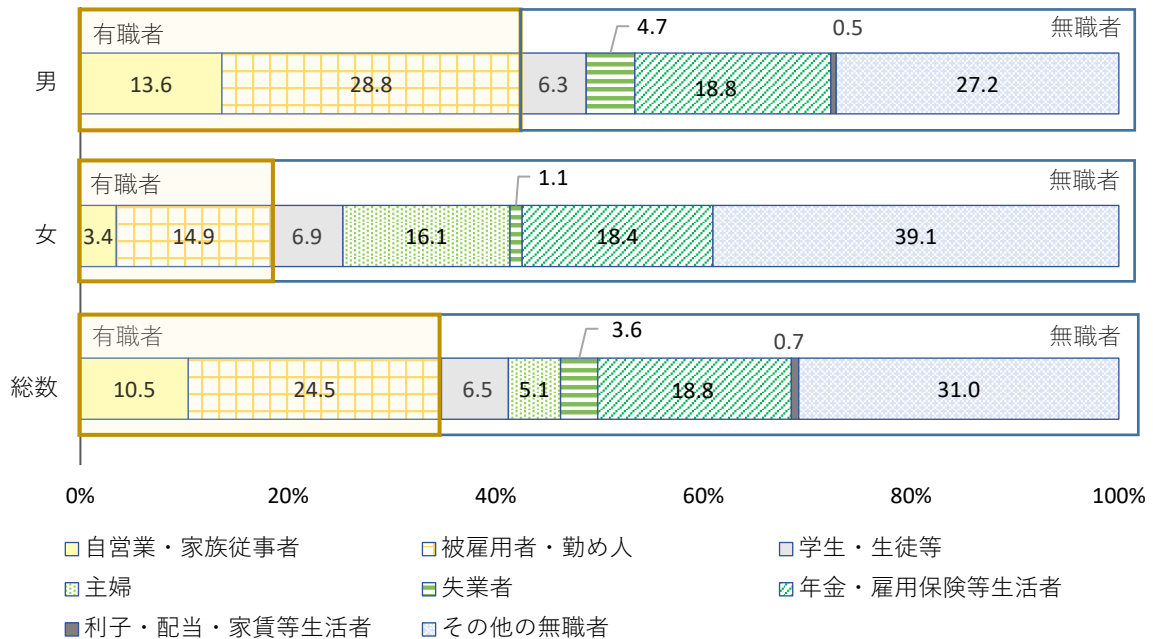


資料：地域における自殺の基礎資料

### (3) 職業別の状況

#### 3-1 職業別自殺者の構成割合(平成29年～令和3年合計)

職業別にみると、無職者が6割となっており、無職者のなかでも「その他の無職者」の割合が男女ともに高くなっています。次に有職者の「被雇用者・勤め人」となっています。

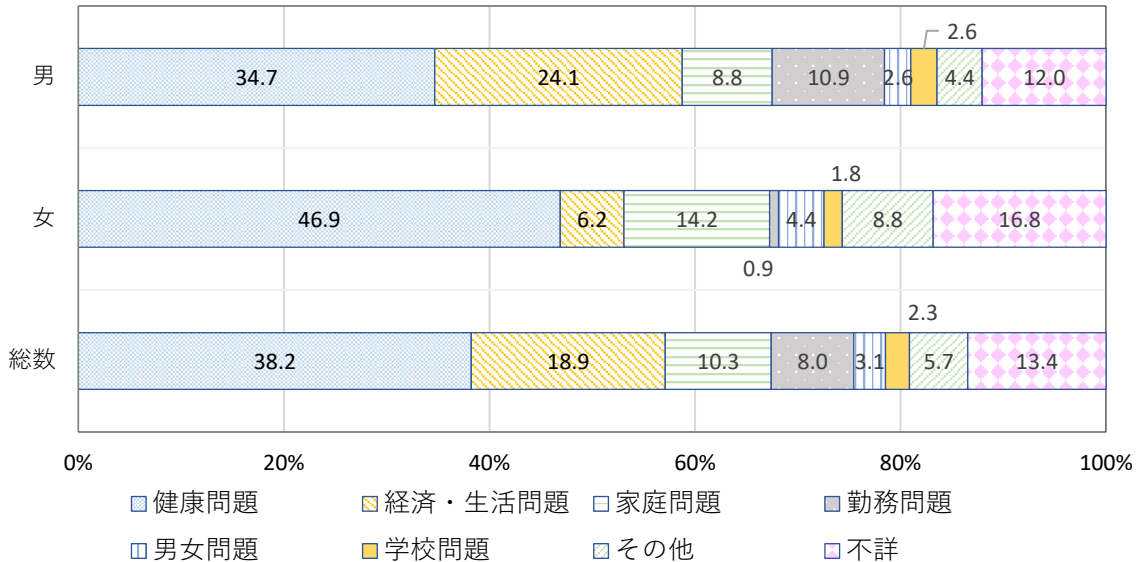


資料：地域における自殺の基礎資料

#### (4)原因・動機別の状況

##### 4-1 原因・動機別の構成割合(平成29年～令和3年合計)

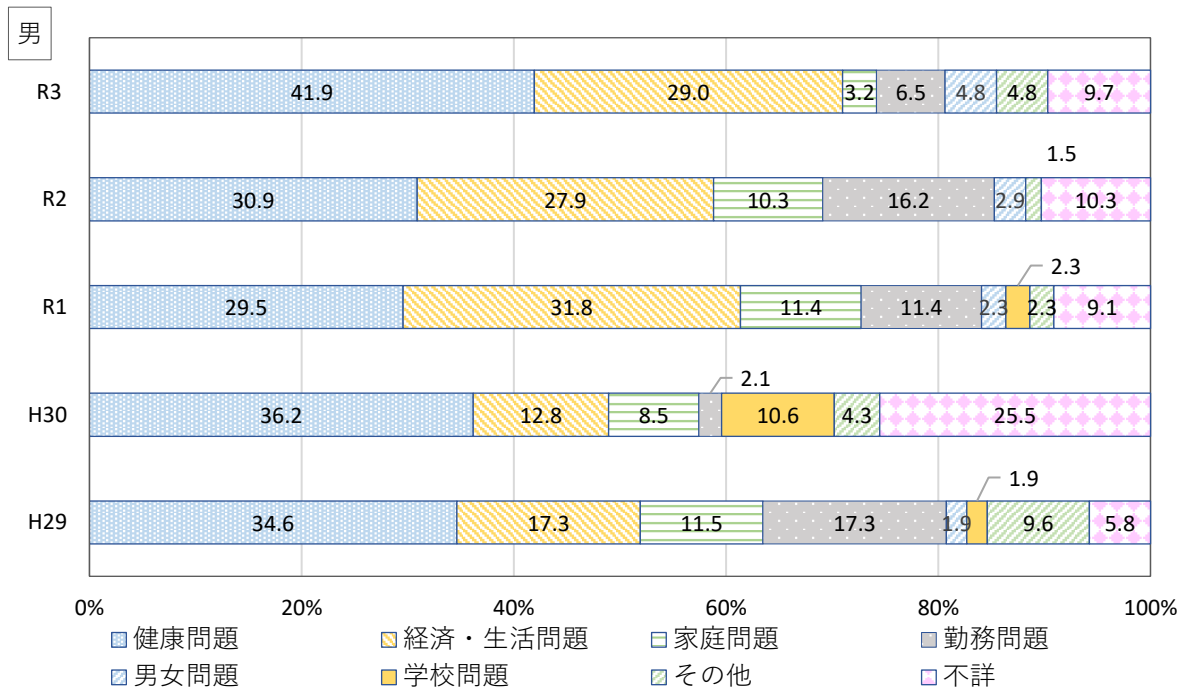
原因動機別にみると、「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」の順になっています。男女別では「健康問題」に次いで、男性は「経済・生活問題」、女性は「家庭問題」を抱える割合が高くなっています。



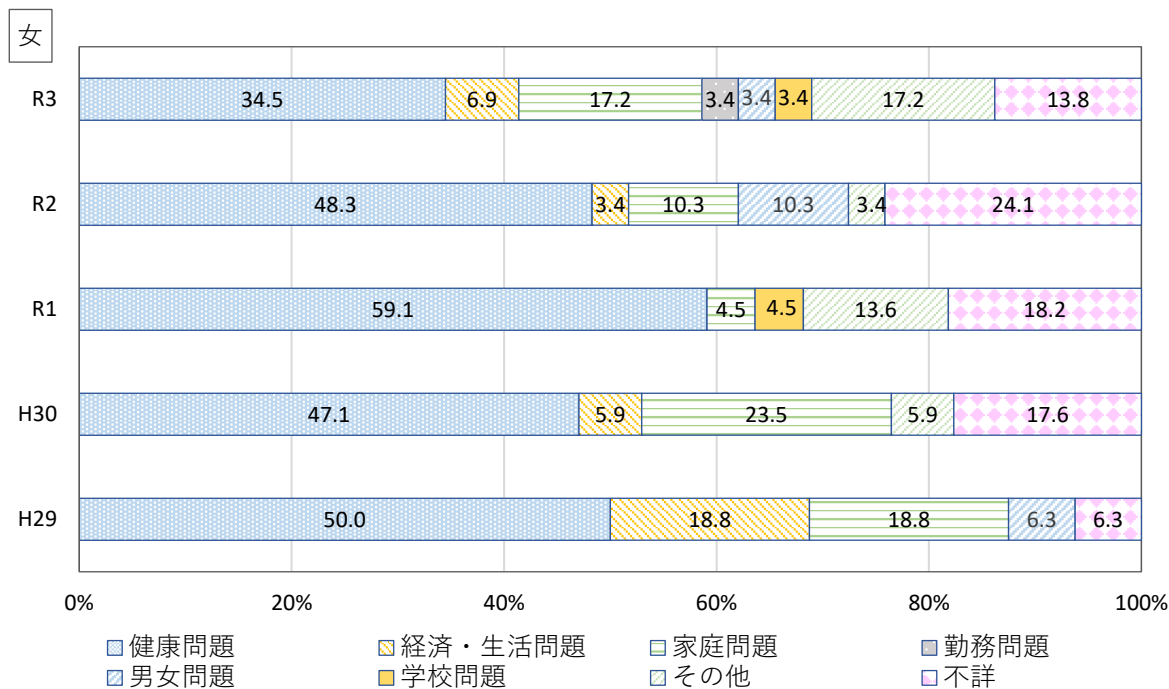
資料：地域における自殺の基礎資料

##### 4-2 原因・動機別構成割合の推移(平成29年～令和3年)

男性は令和元年以降「経済・生活問題」の割合が高くなっています。女性は令和2年以降「家庭問題」、令和3年は「その他の原因・動機(孤独感・近隣関係などを含む)」の割合が高くなっています



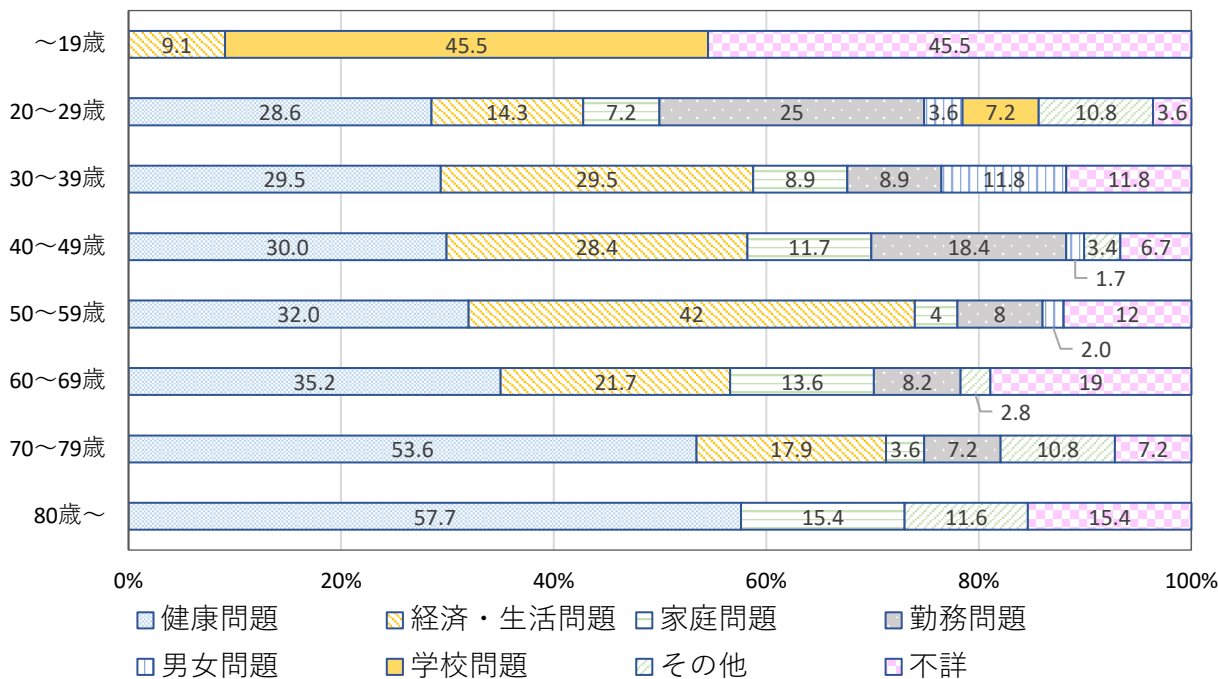




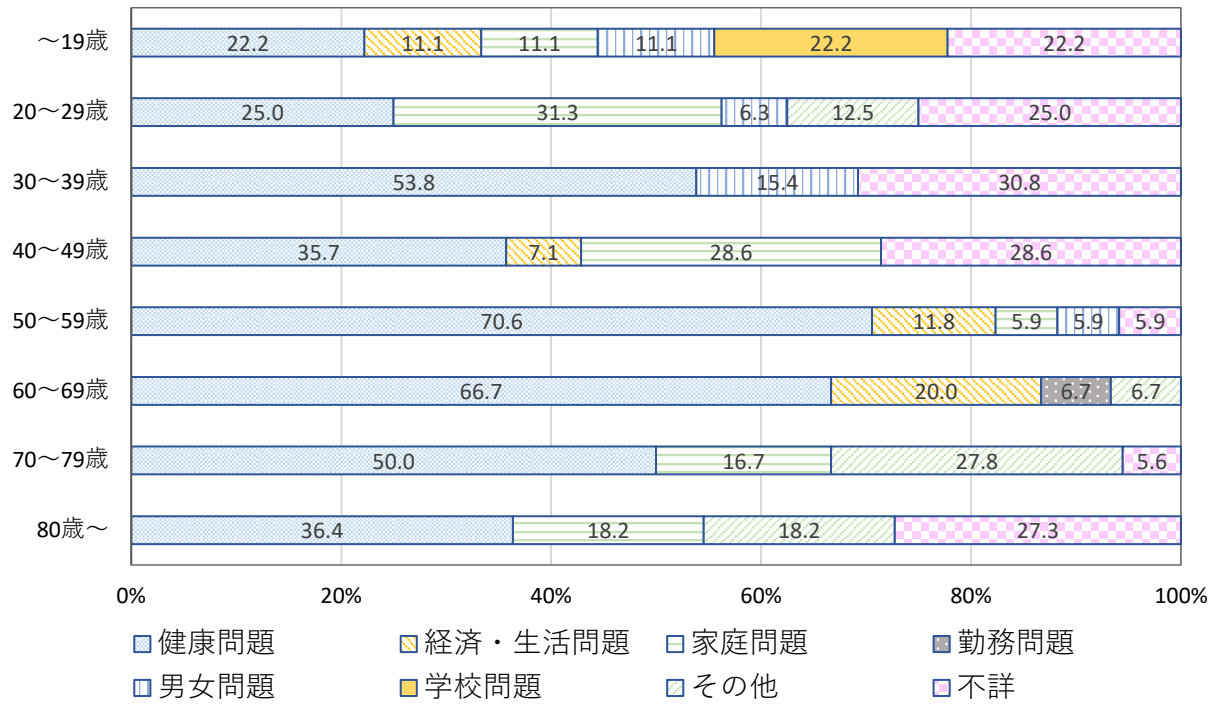
資料:地域における自殺の基礎資料

原因・動機別を年代で見ると、男性は年代が上がるにしたがい「健康問題」の割合が高くなっています。20歳未満は「学校問題」が最も高く、20歳代は「勤務問題」、30歳代から50歳代にかけて「経済・生活問題」の割合が高くなっています。女性は、20歳未満は「健康問題」と「学校問題」の割合が最も高く、20歳代と40歳代は「家庭問題」の割合が高くなっています。

男 (年代別)



女（年代別）

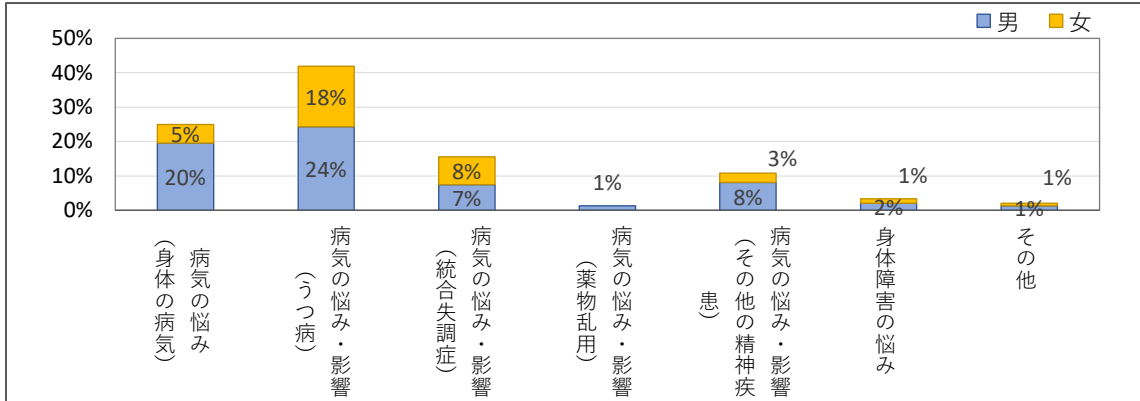


資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）において特別集計（自殺日・居住地）

### 4-3 原因・動機別の内訳(平成29年～令和3年)

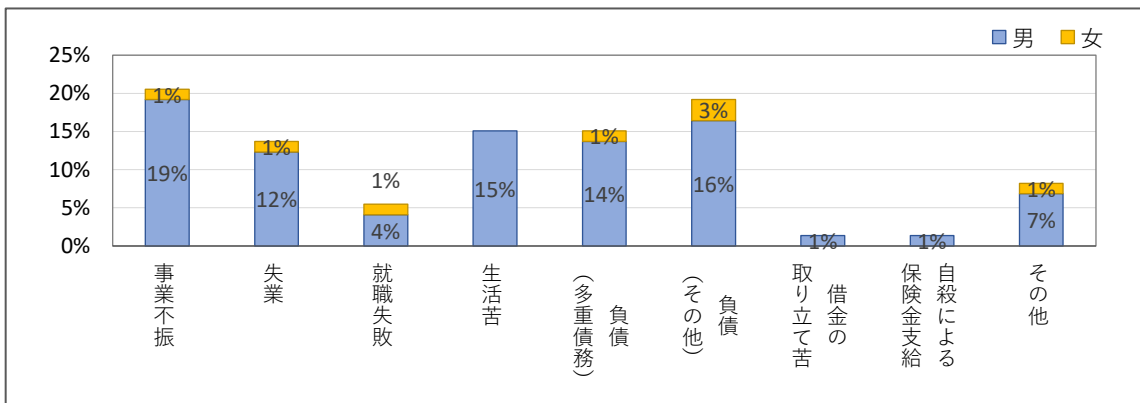
#### (1)健康問題

「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで「病気の悩み(身体の病気)」、病気の悩み・影響(統合失調症)」となっています。80歳以上の男性では、約7割「病気の悩み(身体の病気)」を原因・動機にあげています。



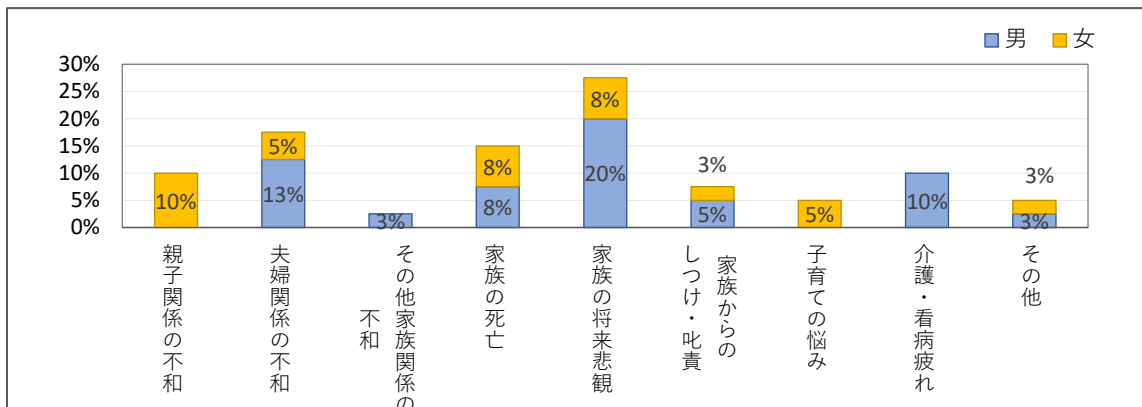
#### (2)経済・生活問題

「事業不振」が最も多く、次いで「負債(その他)」、「負債(多重債務)」・「生活苦」となっています。



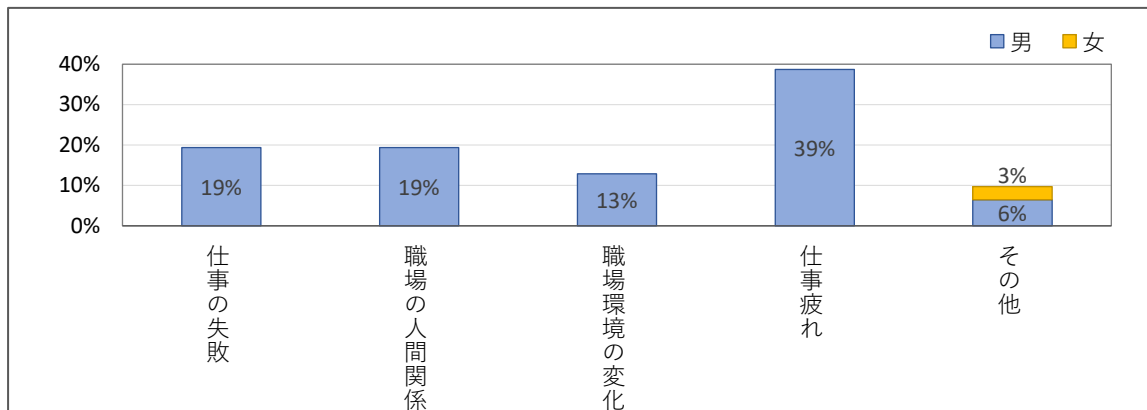
#### (3)家庭問題

「家族の将来悲観」が最も多く、次いで「夫婦関係の不和」、「家族の死亡」となっています。女性では「親子関係の不和」が最も多くなっています。「介護・看病疲れ」は男性のみが原因・動機として挙げています。



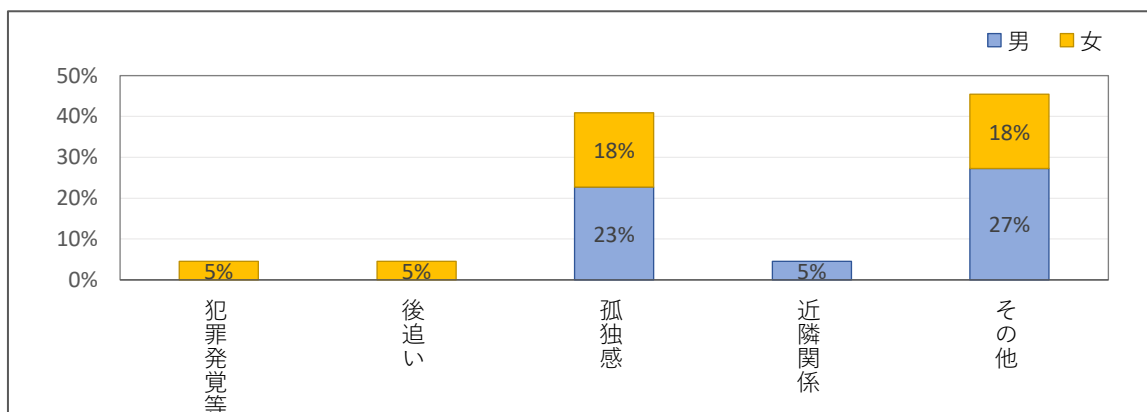
#### (4)勤務問題

「仕事疲れ」が最も多く、次いで「仕事の失敗」「職場の人間関係」となっています。勤務問題を原因・動機として挙げる女性の割合は少なく、男性は20歳代～70歳代と幅広い年代にみられています。



#### (5)その他

「その他」が最も多く、次いで「孤独感」となっています。「孤独感」を原因・動機として挙げたうちの約6割が70歳以上です。

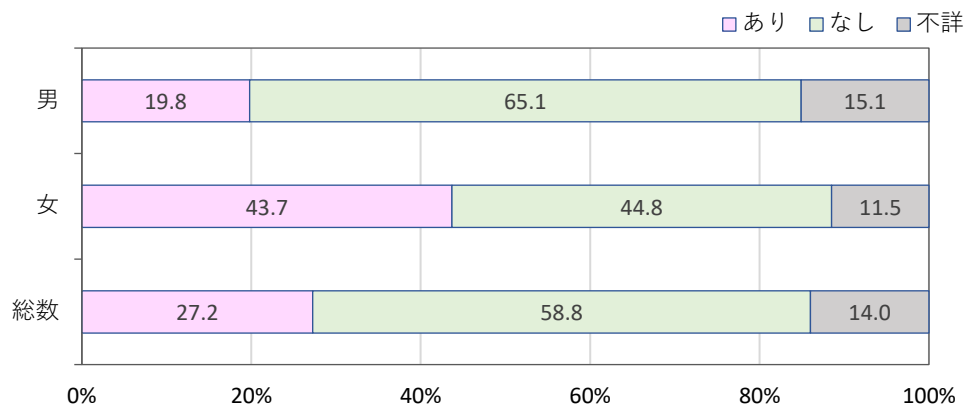


資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）において特別集計（自殺日・居住地）

## (5) 自殺未遂の状況

### 5-1 自殺未遂歴有無の割合（平成29年～令和3年合計）

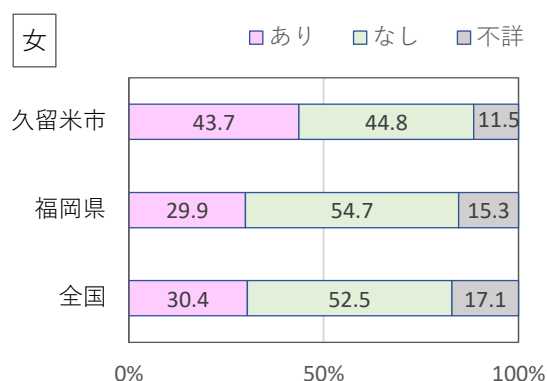
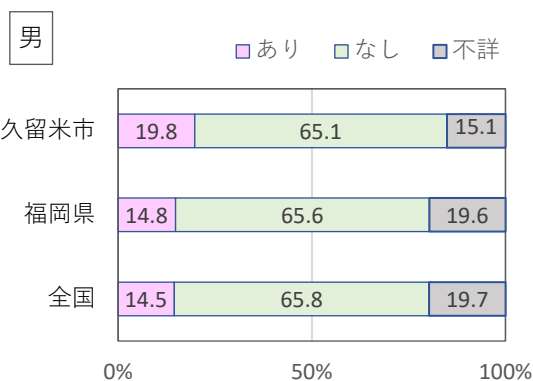
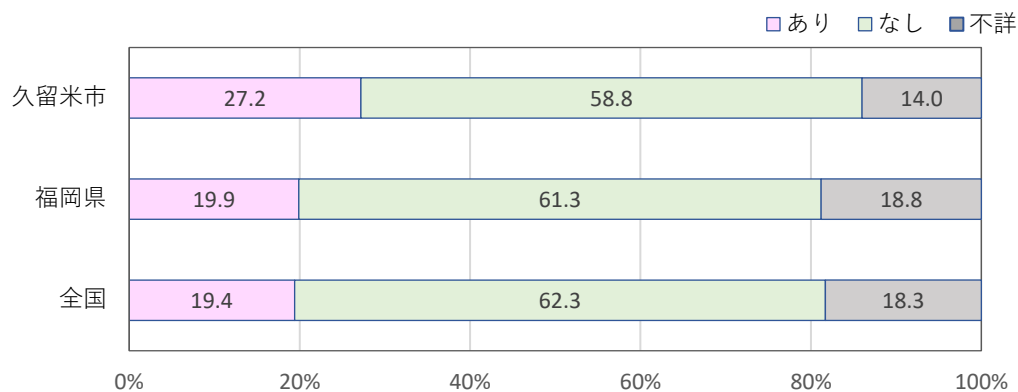
自殺未遂歴の状況をみると、自殺者の27.2%に自殺未遂歴があります。特に女性は43.7%に未遂歴があります。



資料：地域自殺実態プロファイル 2022年更新版

### 5-2 自殺未遂歴有無の割合（全国、福岡県比較）(平成29年～令和3年合計)

全国、福岡県と比べ、自殺未遂歴の割合が高くなっています。女性については特に差が大きくなっています。



資料：地域自殺実態プロファイル 2022年更新版

### 3 令和4年度久留米市民意識調査

#### (1) 調査対象等

- ・調査対象 久留米市に在住する満18歳以上の人(7,000人)
- ・調査期間 令和4年7月21日～8月19日
- ・回答数(率)3,532票(50.5%)うちインターネット回答970票
- ・回答者の属性

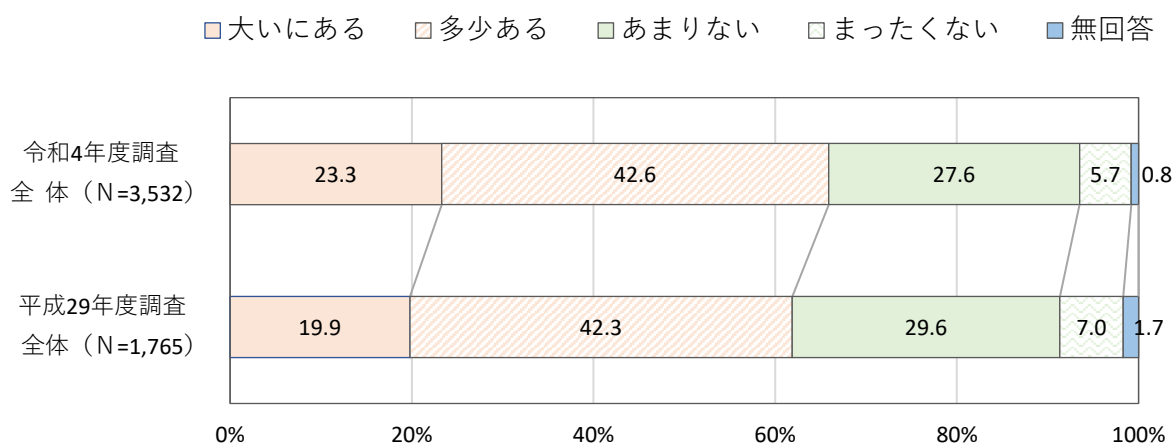
性別	N=3,532	全体	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
	男性	1,533	146	177	288	280	350	290	2
43.4		9.5	11.5	18.8	18.3	22.8	18.9	0.1	
女性	1,981	238	264	352	353	421	353	0	
	56.1	12.0	13.3	17.8	17.8	21.3	17.8	0	
無回答	18	0	0	0	1	2	10	5	
	0.5	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1	55.5	27.8	
計	3,532	0	441	640	634	773	653	7	
	100.0	0.0	12.5	18.1	18.0	21.9	18.5	0.2	

単位は上段：人、下段：%

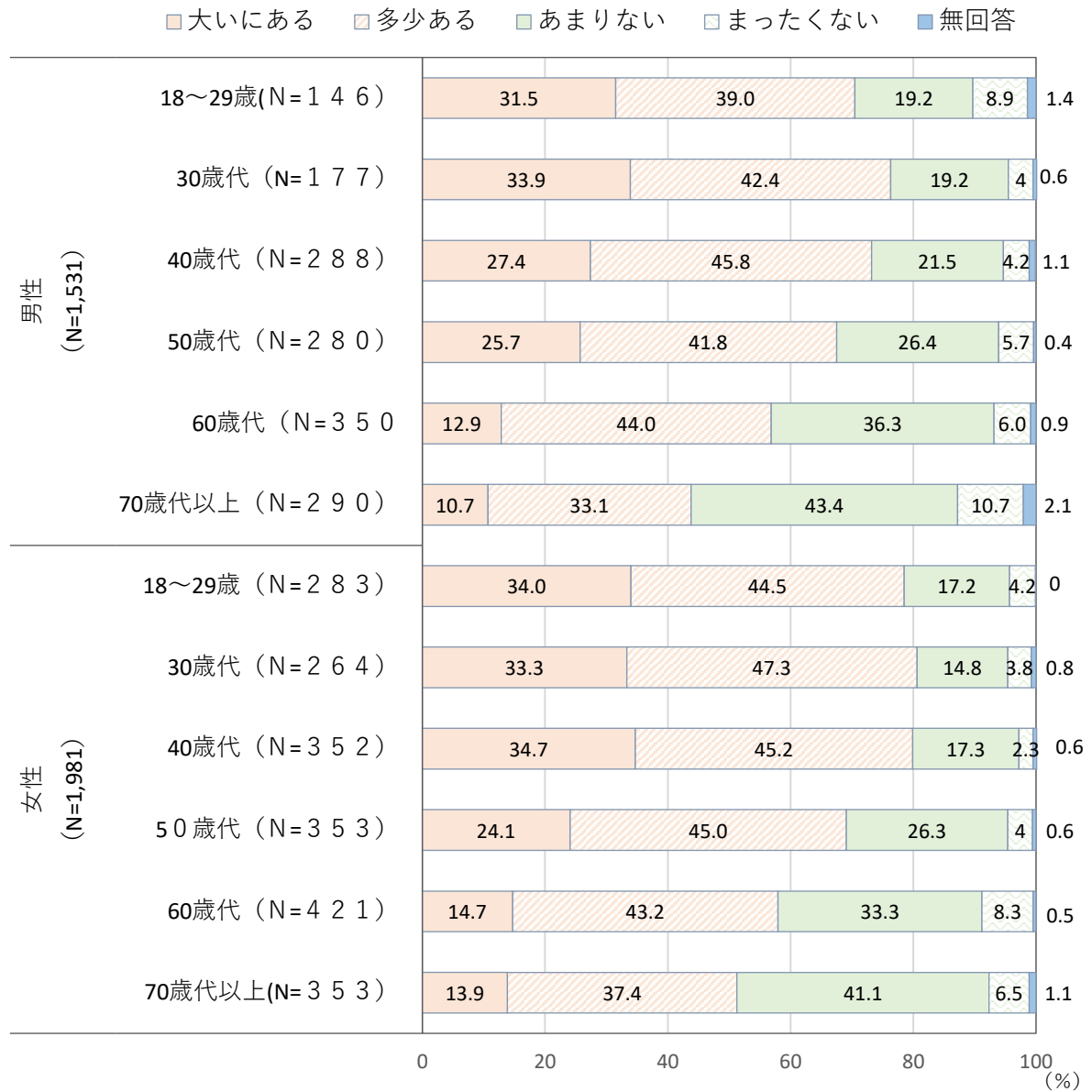
#### (2) 調査結果

##### ① 不安や悩み、ストレスの状況

ここ1か月くらいの間に、不安や悩み、ストレスをかかえたことが『ある』(大いにある・多少ある)人は65.9%でした。平成29年度調査に比べ3.7ポイント増加しています。



性別・年代別にみると、男女ともに年齢の低い層で不安や悩み、ストレスを抱えたことが『ある』の割合が高い傾向にあります。内訳をみると「大いにある」は男性の18歳～30歳代、女性の18歳～40歳代で3割を超えています。

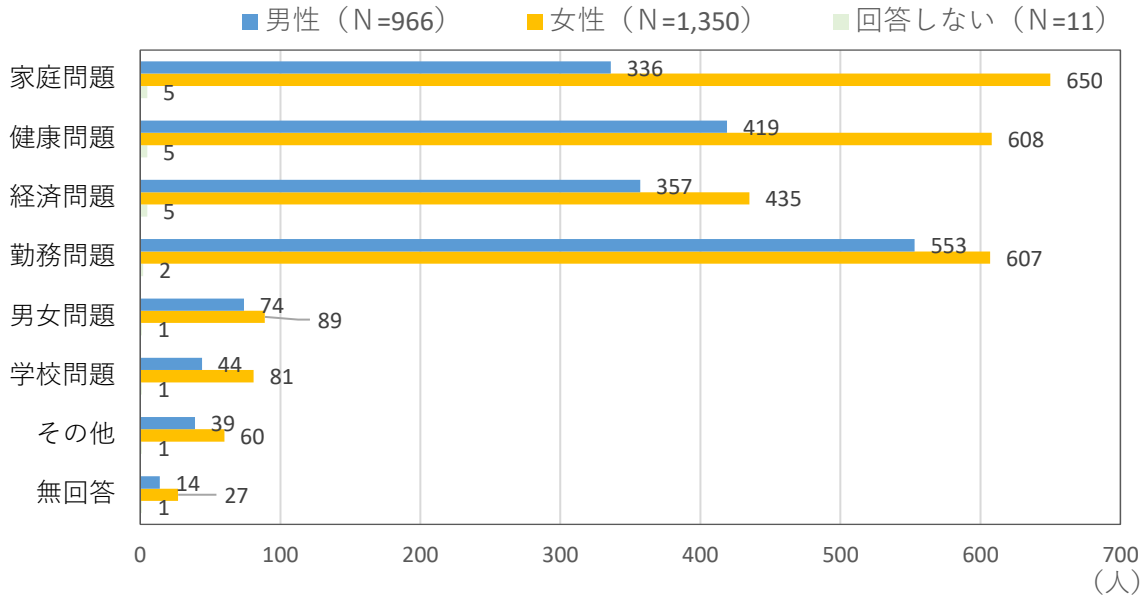


## ② 不安や悩み、ストレスの原因(複数回答)

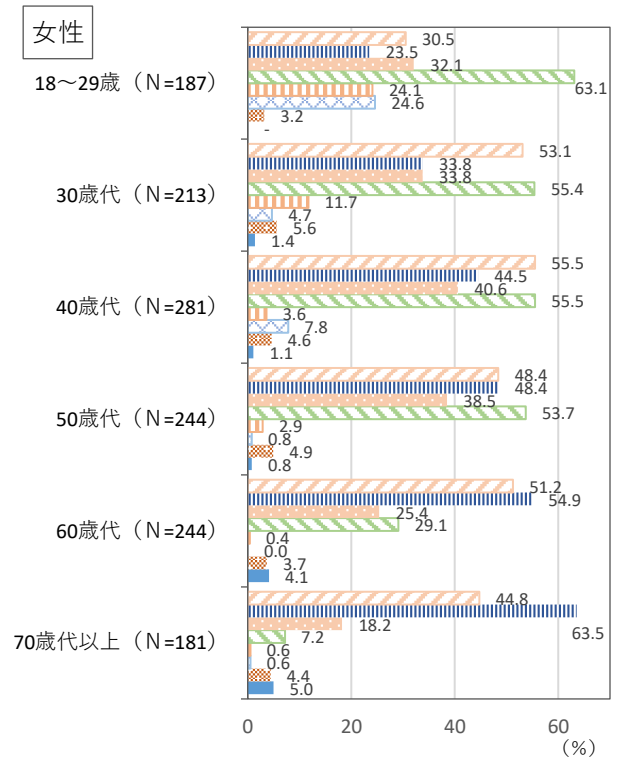
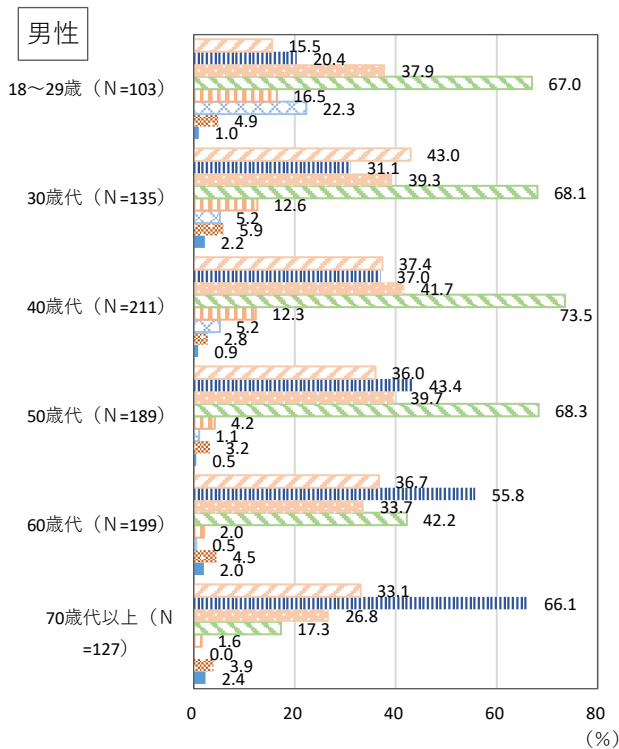
不安や悩みストレスの原因は「勤務問題」が最も多く、「健康問題」「家庭問題」が上位となっています。

男性では、①「勤務問題」②「健康問題」③「経済問題」

女性では、①「家庭問題」②「健康問題」③「勤務問題」の順になっています。



男性では18歳～50歳代までは「勤務問題」が最も多く、60歳代以上は「健康問題」が多くなっています。女性では18歳～50歳代までは「勤務問題」が多く、30歳代からは家庭問題の割合も増加しています。60歳代以上は「健康問題」が5割を超えています。

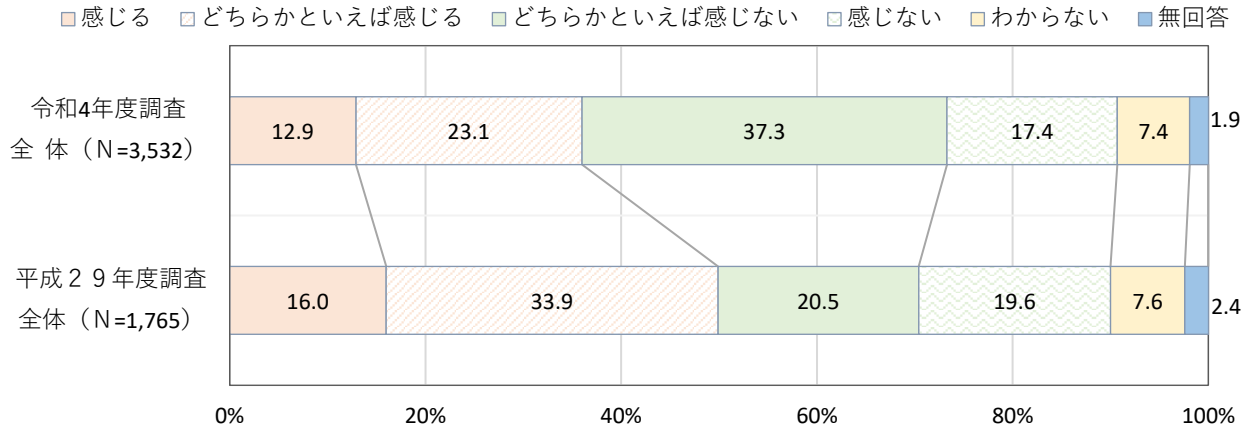


■ 家庭問題 ■ 健康問題 ■ 経済問題 ■ 勤務問題 ■ 男女問題 ■ 学校問題 ■ その他 ■ 無回答

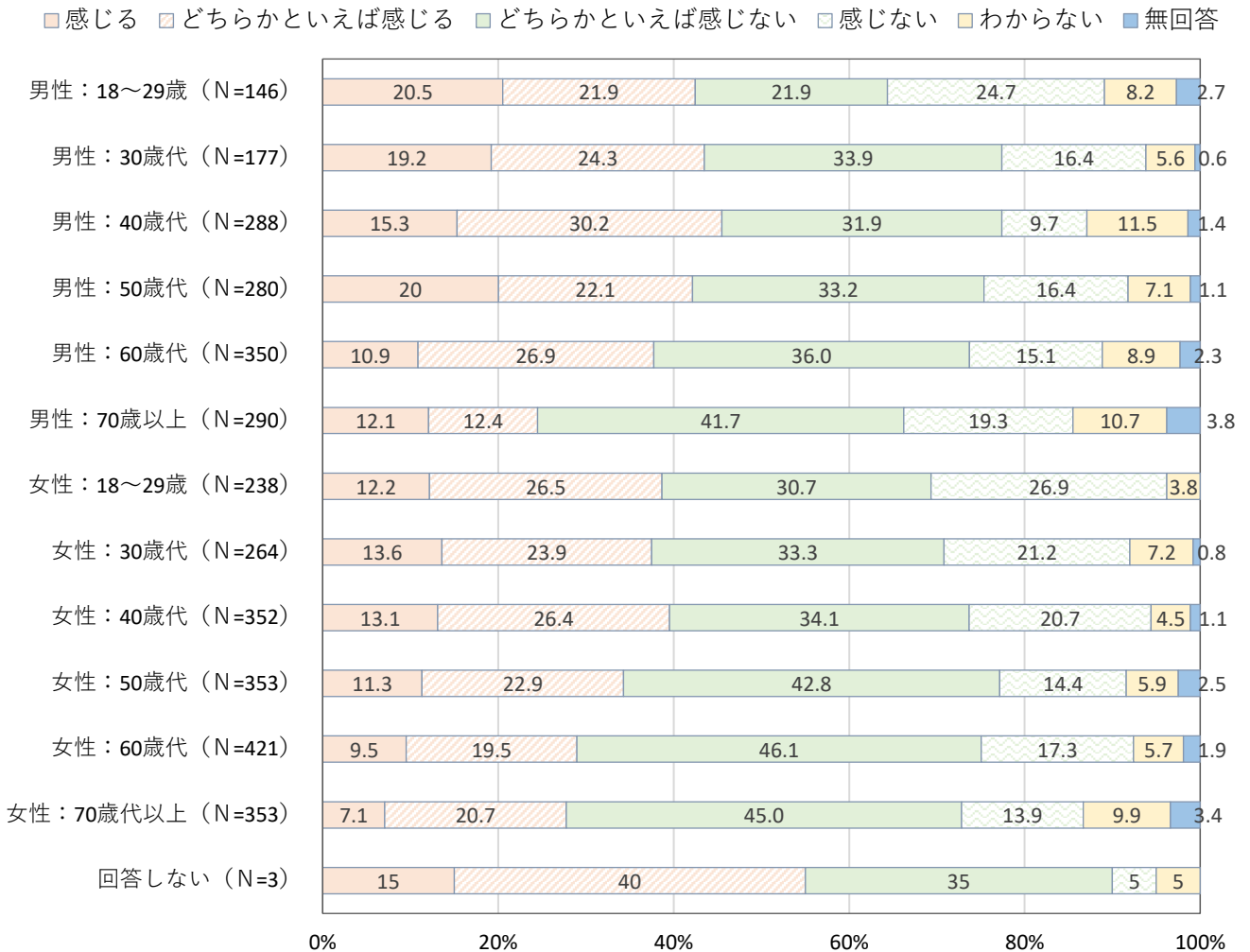


### ③ 不安や悩み、ストレスを相談することへのためらい

不安や悩み、ストレスを抱えた場合に、誰かに相談したり助けを求めることのためらいを『感じる』割合は全体の36.0%で、平成29年度の調査時に比べ減少しています。

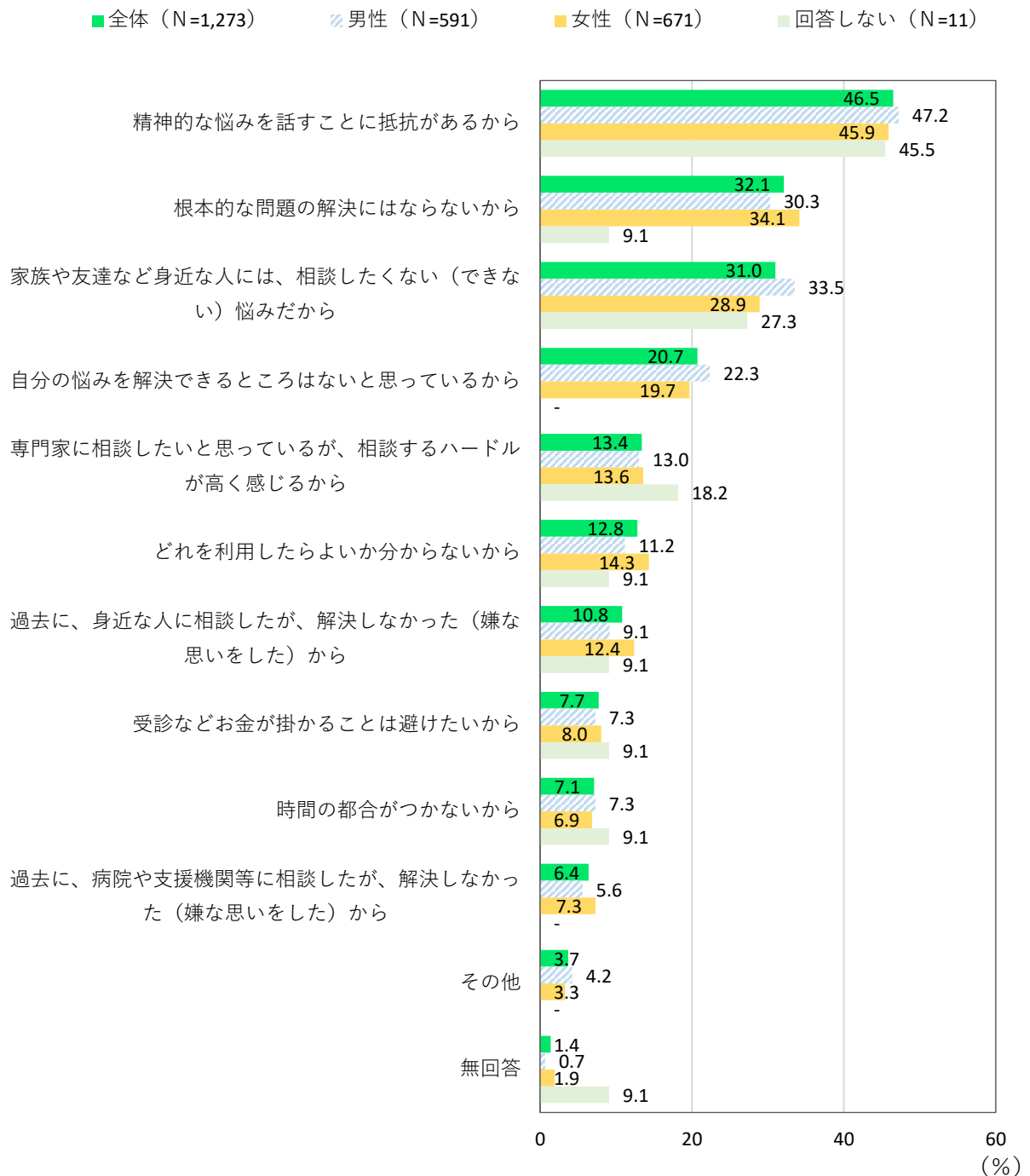


性・年代別にみると男女とも年齢の低い層で『感じる』の割合が高くなっています。男性では18歳～50歳代までが『感じる』の割合が5割を超えています。



### ③-2 ためらいを感じる原因（複数回答）

ためらいを感じる原因は「精神的な悩みを話すことに抵抗があるから」が最も高くなっています。次いで「根本的な問題の解決にならないから」、「家族や友達など身近な人には相談したくない（できない）悩みだから」などが3割台となっています。



#### ④ 不安や悩み、ストレスの相談先(複数回答)

不安や悩み、ストレスを抱えた場合の相談先は「同居の家族や親族」が最も高く、次いで「友人・知人」、「別居の家族や親せき」などの割合が高くなっています。男女とも18歳～29歳は「友人・知人」、30歳以上は「同居の家族や親族」の割合が高くなっています。

		同居の家族や親族	友人・知人	別居の家族や親族	職場の上司・同僚	かかりつけ医の医療機関(精神科や心療内科を除く)	精神科や心療内科などの医療機関	市役所・保健所などの公的機関	地域包括支援センター・障害者基幹相談	学校の先生	SNS相談(LINEほか)	民生委員・児童委員	職場の健康管理センター	学校のカウンセラー	薬局	民間ボランティアのTEL相談	相談しない	相談する相手はいない	その他	無回答
全体(N=3,532)		66.5	56.1	40.3	16.0	9.2	5.1	3.7	1.8	1.4	1.2	1.0	0.8	0.6	0.6	0.5	6.2	2.3	0.7	0.9
男性	18～29歳(N=146)	60.3	<b>67.8</b>	26.0	17.8	5.5	<b>7.5</b>	0.7	1.4	<b>8.9</b>	<b>3.4</b>	0.0	0.0	<b>2.1</b>	0.7	0.0	8.2	2.1	0.7	1.4
	30歳代(N=177)	66.7	55.9	28.2	<b>31.6</b>	1.1	2.8	2.3	—	—	1.1	—	1.7	1.7	0.6	0.6	<b>11.9</b>	3.4	—	0.6
	40歳代(N=288)	63.9	49.0	28.5	27.4	4.9	5.9	3.5	0.3	1.0	1.0	1.0	1.4	0.3	0.7	0.3	8.0	4.2	<b>1.4</b>	0.7
	50歳代(N=280)	65.0	44.3	26.4	21.8	9.3	4.6	4.3	1.1	—	0.7	1.1	<b>2.9</b>	—	0.7	—	8.9	<b>4.6</b>	0.7	0.7
	60歳代(N=350)	<b>70.3</b>	45.1	32.3	10.3	14.6	6.3	5.4	1.4	—	—	0.6	0.6	—	<b>0.9</b>	0.6	8.0	1.4	0.6	0.9
	70歳以上(N=290)	69.0	32.4	<b>40.0</b>	1.0	<b>20.0</b>	4.8	<b>7.2</b>	<b>5.9</b>	—	0.3	<b>2.4</b>	—	—	0.3	<b>0.7</b>	7.2	2.4	—	2.4
	合計(N=1,533)	66.4	46.8	30.9	17.0	10.4	5.4	4.4	1.8	1.0	0.8	1.0	1.1	0.5	0.7	0.4	8.5	3.0	0.6	1.1
女性	18～29歳(N=238)	56.3	<b>80.7</b>	31.9	20.2	1.7	4.6	0.8	0.4	<b>5.0</b>	<b>4.2</b>	—	—	<b>1.7</b>	—	—	2.9	1.3	0.8	—
	30歳代(N=264)	<b>70.5</b>	66.3	50.4	23.9	4.5	<b>6.4</b>	1.9	1.1	3.0	2.7	0.8	0.8	1.5	0.4	0.4	3.8	1.5	<b>1.5</b>	0.8
	40歳代(N=352)	69.9	69.3	47.2	<b>24.4</b>	4.5	7.4	1.7	0.9	2.6	1.4	0.3	0.6	0.9	0.3	<b>1.1</b>	3.7	<b>2.3</b>	0.3	1.1
	50歳代(N=353)	68.8	59.8	46.2	20.1	6.8	2.8	3.7	1.4	0.8	1.1	0.6	<b>1.1</b>	0.3	—	0.3	<b>7.1</b>	2.0	0.6	0.6
	60歳代(N=421)	68.6	59.9	<b>54.2</b>	7.4	10.2	3.8	4.0	1.7	0.2	0.7	1.7	0.7	—	0.7	0.5	4.3	1.4	0.2	0.5
	70歳以上(N=353)	64.0	50.4	50.7	0.8	<b>17.8</b>	4.5	<b>5.4</b>	<b>4.2</b>	—	0.6	<b>2.5</b>	—	0.3	<b>1.4</b>	0.8	4.2	2.0	1.1	1.4
	合計(N=1,981)	66.8	63.2	47.7	15.2	8.2	4.8	3.1	1.7	1.7	1.6	1.1	0.6	0.7	0.5	0.6	4.4	1.8	0.7	0.8
性別	回答しない(N=20)	40.0	65.0	30.0	10.0	15.0	15.0	5.0	5.0	—	—	—	—	—	—	—	10.0	5.0	—	—